皆さまにおかれましては心穏やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

全国的に新型コロナウイルスの感染者数が急増するなか、本市が感染拡大を最小限に抑えられているのも市民の皆さまのご協力の賜物であり心より感謝申し上げますとともに、今後も本市の感染者が増加しないことを願っております。

昨年を振り返って

昨年４月の市長選挙で市民の皆さまからご信任を賜り、２期目の市政を担わせていただくことになりました。

就任当初から新型コロナウイルス感染症対策に全力を尽くすとともに、低迷した地域経済を単に戻すのでなく市の社会構造を見直す契機として捉え、国の地方創生臨時交付金を活用するなど、感染症に強いまちづくりと本市の地方創生の実現に向けさまざまな取り組みをさせていただきました。

新年を迎えるにあたり

本年も引き続き「いのちを守る」・「経済を復興する」・「学びを取り戻す」の３つを基本方向とする「アフターコロナ矢板創生戦略」に基づく感染症対策と、「矢板創生」の実現に向けて次のような事業を展開してまいります。

【矢板市子ども未来館２月オープン】

子ども・子育ての支援拠点としての機能を高めることを目的に開館いたします。

雨天時でも子どもたちが元気に楽しめるよう、県産材を利用した大型遊具を設置した遊びのスペースや、子育て相談、イベント開催ができる多目的室などが備わっており、子育て支援の充実を図ってまいります。

【矢板北スマートインターチェンジ３月開通予定】

東北自動車道「矢板北スマートＩＣ」の開通により、本市の観光資源である北部地域や中心市街地へのアクセスが向上することで更なる観光客誘致に努めます。

開通に合わせて新規コンテンツの発掘や既存の観光資源の磨き上げに一層力を入れ、本市の魅力を更に発信してまいります。

【デマンド交通 10 月導入予定】

超高齢社会が到来するなかで、高齢者の移動手段の確保は更に重要になります。

皆さまの利便性の向上を目的に現在の定時定路線型の市営バスを廃止し、デマンド交通の導入および中央部循環路線の充実を図ります。

むすびに

今年も皆さまとともに、ふるさと矢板の未来を切り拓き、県内はもとより全国の小規模自治体のトップランナーとなれるよう市政運営に努めてまいります。

本年が皆さまにとりまして、幸多き年となりますよう心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

矢板市長　齋藤　淳一郎

2021 年　謹賀新年

明けましておめでとうございます

皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、市政ならびに市議会の活動に対しまして、皆さまの温かいご理解と力強いご支援により、円滑な議会運営ができましたことに心よりお礼申し上げます。

昨年を振り返って

昨年は、新型コロナウイルス感染症への対応に苦慮した１年でした。議会としても、感染症対策として、一般質問時間の短縮や傍聴の自粛要請、議会報告会の中止などといった、苦渋の選択をせざるを得ませんでした。

この新たな危機に対応するため、市議会の災害対応マニュアルなどを発展させた、「矢板市議会業務継続計画」を策定いたしました。

今後、あらゆる状況の中でも、議会としての役割を果たし、市民の皆さまの負託に的確に応え、市民福祉の向上と市勢の発展を目指してまいります。

新年を迎えるにあたり

近年、市政の運営にあたっては、少子高齢化、人口減少などのさまざまな難題を抱えながら、社会資本の整備、教育や福祉の更なる充実など、広範かつ、きめ細かな行政サービスが求められております。

また、地方分権、地方創生が加速し、地方自治体には独自性が求められる時代のなか、矢板市が独自の道を進むには、市民の意思が十分に反映された上でその方向性が決定されなければなりません。

市民代表の合議体として、市の意思決定機関である市議会がそこで果たすべき役割は非常に重要であると受け止めております。

そのため、市議会は市民参加の機会の充実に努め、より効果的な施策を検討していくとともに、市民の皆さまからいただいたご意見を形にできる体制を整えるべく、議会の機能強化にも引き続き取り組んでまいります。

議会全体で市政運営に対する理解を深め、そして研鑽を積み、熟議の過程において民意を反映させた意思決定をすることで、より市民満足度の高い市政運営が実現されるものと考えております。

今後も、皆さまからの信頼を確たるものにすべく「開かれた議会」を継続し、鋭意取り組んでまいりたいと存じます。

むすびに

市議会は、全議員が一丸となり、矢板市の豊かな市政運営の実現と市勢の発展に尽くしてまいります。

皆さまにとりまして、本年が幸せで実り多い、大いなる飛躍の年となりますことをご祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

矢板市議会議長　石井　侑男

新春×対談

やいたの魅力、内から見るか、外から見るか？

やいた応援大使
山根 大嗣 さん
だいまじん だいじ

お笑いコンビ「だいまじん　だいじ＆じんのすけ」として、栃木県を中心に活躍。とちぎテレビでは、自転車情報番組「Ride ON! 2nd」や「イブ６プラス」にメインMCとして出演中。
「イブ６プラス」内のコーナー「やいた大好き」では、矢板の魅力やお楽しみスポットをお笑い全開で紹介している。
大阪府出身、神奈川県在住。

観光案内所運営者
漆原 邦和 さん
オムーチェ代表

矢板にぎわい館にある観光案内所の運営を任され、矢板の観光情報やアクティビティを発信している。
Outdoor & Sports CLUB の代表として、「遊ぶ」「作る」「学ぶ」をテーマに自然の中での体験を通して、その地域の文化や歴史を学び、魅力ある地域を目指し、地元の矢板を中心に県内で活動中。
矢板市出身、矢板市在住。

ファシリテーター
ともなりくん
矢板市キャラクター

矢板市キャラクターとして、矢板の良いところをたくさんの人に知ってもらうため、全国各地のイベントに出演するなど、精力的に活動している。
今は臨機応変に適度な距離を保ちつつ、やいた応援大使や県内のお友だちキャラとのコラボ動画で矢板の魅力を全世界に発信！「イブ６プラス」内のコーナー「やいた大好き」にも度々出演。
矢板市出身、矢板市在住。

繰り返すある休日の１日、何度でも矢板に恋をする

やいたの魅力、内から見るか？外から見るか？

新春×対談
矢板の「伸びしろ」は？

とちぎテレビ「イブ6プラス」で番組MCを務め、昨年9月から「やいた大好き」のコーナーで何度も矢板市を訪れている「やいた応援大使」の山根大嗣さんと昨年7月に矢板駅西口エリアにオープンした観光案内所の運営者である漆原邦和さん。それぞれの立場から矢板市の魅力を発信しているお二人に、矢板市の魅力に「伸びしろ」はあるのか？を語っていただきました。

ともなりくん　だいじさん、漆原さん、こんにちはナリ♪今日は、お二人にこれからもっとたくさんのお友だちに矢板に遊びに来てもらうためにはどうしたらいいか、市内と市外から見た矢板市の「伸びしろ」をボクに聞かせてほしいナリ。

だいじ　ともなりくん、某芸人さんの「伸びしろですね～！」って僕に言わせたいのかな？

ともなりくん　対談が終わるまでには１回くらい言ってくれるナリかな（笑）

だいじ　ともなりくん、話が進まないから始めようね。漆原さん、カヤップのロケではありがとうございました。初めて乗らせてもらってとても楽しかったです。今日はよろしくお願いします。

漆原　よろしくお願いします。またカヤップを乗りに来てくださいね。

ともなりくん　だいじさんは番組収録をきっかけに矢板に来る機会が増えたと思うけど、実際に矢板市をどう感じたナリか？

だいじ　とちテレの自転車番組でよく来ていたので、今までは八方ヶ原のイメージしかなかったね。今回、番組を通してカヤップや釣りをしたけど、家族で遊ぶ場所がめっちゃあるじゃんというのが正直な感想かな。最近は何かを体験することを目的に旅行をする人も増えてきているから、あのような体験ものはいいなと思ったね。見る観光にプラスして、体験できる観光が増えると面白くなると思う。番組の収録では、カヤップのほかにも、釣り、リンゴ狩り、キャンプなどを体験したけど、どれも楽しかった。もっと体験のコンテンツが増えるといいね。

ともなりくん　漆原さんは、アウトドアのガイドさんをしている傍（かたわ）ら、観光案内所の運営をしているけど、矢板市の観光ってどう思うナリか？

漆原　矢板市もやっと動き出したって感じかな。僕は１つの観光資源としてダムを利用したカヤップを始めたし、ほかにも少しずつ形になり始めたことで、いろいろな可能性が出てくると思っている。ただ、他の市町から比べると観光に関しては動きが遅いかな。

だいじ　確かに、観光のイメージは無かったよね。高速道路もあって便利だけど、ここまで来たら那須まで行っちゃおうかなとなる。

漆原　市外の人は、矢板に遊びに行くという感覚はまだ少ないですね。

だいじ　まだ番組では行ったことないけど、矢板の温泉はどうなの？

漆原　市内には、温泉と鉱泉があるので、そこもPRしてはと思っている。それに、城の湯ふれあいの里にはキャンプ場があるし、まことの湯にはコテージがある。宿泊と温泉という強みがあるので、そこに何か体験できることをプラスアルファできれば、さらに良くなると思う。

だいじ　そうだね。僕には小学３年生の子どもがいるけど、家族で泊まりに行くときには、子どもに何をさせられるかというのが目的地を選ぶ１番のポイントになっている。山の中の釣り堀でニジマスを釣って、自分でワタをだして、焼いて食べるみたいな。これまでは、ホテルの人が何でもしてくれて、温泉入って疲れを取るのが旅行ってイメージだったけど、自分たちで何かをするから楽しいということに変わってきている。例えば、山で木を伐採するのを見るのではなく、安全な範囲での伐採や、枝を落としてみる体験も観光資源になると思うな。

漆原　それもあるけど、もう１パターンあって、お母さん主体の旅行だと、何もしないで、のんびりしたいみたいな。最近流行のキャンプでも、準備や料理は旦那さんと子どもたちで、私は見てるだけみたいなのもある。

だいじ　そうしたら、のんびりしたい家族向けに、キャンプの準備と片付けはキャンプ場の人がするけど、料金は発生しますみたいな。バーベキューでも食べるだけとか、火起こしから食べるまでとか、自分たちでやりたいことを細かく選べるといいかもね。

漆原　キャンプのいいところだけを家族で楽しむみたいなことですね。それに体験という部分では、矢板には農業も林業もあるので、だいじさんの言うようなポテンシャルはあると思う。あとは地元の方たちと施設が組んで、いろいろな体験が出来るような環境が整えば、形が見えてくるのではないかな。

だいじ　地元の方たちと施設の連携がとれると、すごくスムーズになるね。

漆原　イチゴもリンゴもある。ブドウも野菜もある。苗植えとか収穫のタイミングに体験を重ねられれば、面白いと思う。

だいじ　お米を秋に買うために、春先に田植えを手伝うとか、ブドウの袋掛けをするだけでも、自分が作業したものだと言えるしね。さらにウェブサイトで生長過程をアップしてもらえれば、収穫までの間も楽しめるしね。

ともなりくん　観光資源としての「体験」ってお話が出ているけど、お２人が今でも記憶に残っている体験ってあるナリか？

だいじ　僕が小学４年生だったかな。２泊３日で子どもだけの農業体験に行ったことがある。収穫したこんにゃく芋を洗浄する手伝いと牛の世話をした。たった２泊３日だったが、長靴を履いてつなぎを着て、自分がそういう職業の一端を担ったという経験は、今でも鮮烈に覚えているね。

漆原　僕が覚えているのは、父親と２人でキャンプに行ったことかな。それもキャンプ場ではなくて、本当の山の中で。そこでカレーづくりをしてたときに、カレーの鍋を吊るしていた鉄パイプが熱いのに持とうとして火傷をした。あの時の痛い経験はしっかりと覚えているね。

だいじ　ちょっと冒険させる。痛いとか熱いとか、寒いとかは絶対知っておいた方がいいと思うね。

漆原　僕がアウトドアに興味をもったのは、その時の体験からかもしれないですね。キャンプ場ではないところでサバイバルして、小川でスイカ冷やして食べたりして。

だいじ　トイレも無いしね。

漆原　そんな環境だったからこそ、逆に楽しめたのかな。

だいじ　自然の中では思いもよらないことが遊びになって観光にもなる。

漆原　遊びと言えば、僕が小学生の頃、友だちと近所の藪をかき分けて、草を踏み固めて、田んぼから持ってきた稲わらを敷いたり、積み上げてみたりして秘密基地をよく作っていた。学校が終わったらそこに集合して遊んでいた。稲わらは暖かいし、ふかふかなので気持ちいいんですよ。

だいじ　そうしたら稲わら１つでも観光資源として使えそうだね。

漆原　小学生の頃は自分の背丈と稲が同じくらいだったので、その中に潜って遊んでいたら、先生に見つかり怒られた。地主の方に謝りに行かないと修学旅行に連れて行かないと言われ謝りに行った記憶がある。今の子どもは川で泳いじゃダメ、木に登っちゃダメとか自由に自然の中で遊ぶことができないのがかわいそう。

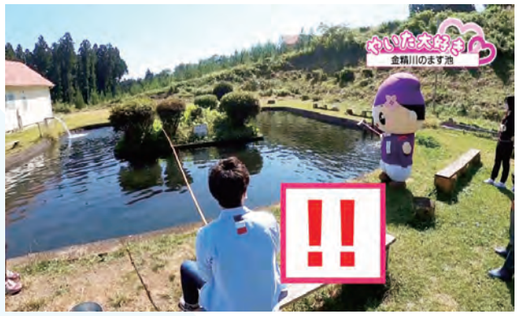
だいじ　それこそ、悪さ体験でもいい。今の子どもは、自分たちが昔やっていたような悪さができなくなっているから、悪さをしていい田んぼや空き地みたいなところで、普段したら怒られるような悪さをする。どこまでやっていいか難しいが、怒られることをしてみようというキャッチフレーズだと、子どもたちの目つきが変わるかもしれない。

漆原　ただ、最後は本当に雷親父が出てくる。もちろん子どもたちには内緒にしておいて、叱られるみたいなオチがあるとか（笑）

ともなりくん　２人とも子どもの頃に体験したことが強く残っているみたいだけど、だいじさんみたいに、都会に住んでいる人に楽しんでもらえるものってどんな体験ナリかな？

だいじ　漆原さんのカヤップみたいに自然の中で道具を使って遊ぶのも楽しいと思うけど、リバーウォークやナイトツアーのように、自然の中を歩くだけとかでも、首都圏の人たちにはいい体験だと思うよ。普段聞こえない音が聞こえたりするってだけでも楽しいんじゃないかな。

漆原　シンプルなものでもいいんですね。僕たちにとっては当たり前でも、自然が身近にない人たちからすると、田んぼの中とか里山みたいなところでも新鮮に感じるんでしょうね。



ともなりくん　これから矢板市のみんなが頑張っていくと、もっと楽しくなるものって何ナリかな？

だいじ　今はSNSの時代だから、発信力は１番重要だね。でも、テレビ・ラジオもそうだけど、インパクトを狙ったがゆえに炎上するというのが難しいところかな。キャッチーな上手いことができるといいね。大前提は、教育的な意味合いとか情操教育的な意味合いがしっかりしていれば、ちょっと攻めてもある程度許されるみたいな。

漆原　じゃあ、炎上しても心さえ折れなければいけるかな？

だいじ　ネットでアクセスされている人を見ていると、そこは強いと思う。番組の作り手であるスタッフは、苦情のメールや電話が１件来ると過剰に反応する。ある程度スミマセンとは言いながらも許容範囲、想定内で考えておかないとスタッフのやる気がなくなるし、演出方法も減ってしまうので面白くない。逆に苦情があると言うことは見てもらえている証拠だしね。ともなりくんも、もっと攻めてみたら？

ともなりくん　ボクはだいじさんとの絡みで十分ナリ。

だいじ　なにそれ。僕との絡みはそんなに炎上しそう？

ともなりくん　・・・・・。

だいじ　ノーコメントかい。

ともなりくん　漆原さんが市内で頑張っていくと伸びると思うものって何ナリか？

漆原　実際にカヤップやトレッキングのガイドをしていて感じることは、短い時間でどれだけ楽しいことができるかってことかな。旅行で遊びに来る人は、旅行の中で複数の体験をしたいって考えている人たちが結構いるから、１時間くらいで比較的安価な料金設定という方が、次の体験にもつながるから面白いと思うね。今、矢板に足りないものは、そのためのコンテンツが集めきれていないことだね。１日でいろいろな体験ができるツアーや、複数のコンテンツの中から選べるようになれば、観光としての幅がグッと広がると思うね。

だいじ　まずは１つにまとめないと、何も作れないものね。

漆原　ただ、僕も矢板市内で何をどれだけやっているか分からないから、行政と民間が一緒になって進めていくことも大切かなと思っている。行政に動いてもらわないと進まないようなこともあるし、民間がしっかりやっていかないといけない部分もあるから、それが同調することで出来ることは増えていくと思う。

ともなりくん　２人とも仕事で県内外のあちこちに行っていると思うけど、ほかのまちと比べると矢板市の観光はどんな感じナリか？

だいじ　全国的な知名度が無いから、飲食店などのコンテンツは集まりにくいけど、日光や那須、宇都宮といった有名観光地を除けば、県内でも負けてはいないと思うよ。魅力的なものも多いし。それに、メインとしての観光地じゃなくても、那須の手前にあるから那須に行く途中にどうぞ、那須の帰りにどうぞくらいでもいいんじゃないかな。ネットでも那須を調べてると矢板のことが出てくるみたいな。

漆原　矢板もほかでもやっていることは一緒だね。お客さんは何を検索してるかといえば、まずは泊まるところ。遊びを先に検索してはいない。今回のGoToトラベルでも、鬼怒川に泊まって、塩田にカヤップを体験しに来た人もいたしね。３月には矢板北スマートインターチェンジができる。あそこは降りたらすぐにリンゴ園という観光地になるから、とてもプラスの要素になると思うよ。それに、旧長井小への交通の便が良くなるから、そこを拠点にして、キャンプ、釣り、リンゴ狩り、自転車などのセットで提案するのも面白いかもね。

だいじ　その道すがらに美味しいカフェでもあればなおいい。観光地としてのメリットが生まれてくれば、おいしい飲食店も自然と集まって来る。

漆原　あとは、なんでもないお店もメディアの力で変えてしまうのもありかな。だいじさんが矢板の飲食店を全部食べ歩いて、動画配信してもらうとか。食べ物というよりも、そこの店主との会話で。

だいじ　そうだね。テレビのまち歩きなんかは、人にスポットを当ててキャラクターを引き出す部分もあるしね。今回の撮影で飲食店を何軒か回ったけど、どこのお店もおいしかったよ。でも、矢板と言えばこれというものがあるといいね。それに、ヤシオマスやヤシオポークっていう素材のブランド力以外に、提供する料理の見栄えも必要かな。特に女性は新しいものやキレイなもののところに行きたくなる傾向があるしね。

漆原　矢板のお店も外装や内装をちょっと工夫することでイメージが変わるのかなと思う。それに店主に若い人が少ない点も弱いところかな。

だいじ　お店に人が来るようになれば継ぐ人も出てくるしね。矢板はそんなに悲観することはないと思うよ。

ともなりくん　ズバリ、矢板市に伸びしろはあるナリか？

だいじ　矢板の伸びしろはまだまだあると思うよ。交通の便も良いしね。この先どうなっていくかはまだ分からないけど、今年、コロナが落ち着けば、人も動き出すと思うし、2022年には国体で全国から多くの人が栃木県に来るでしょ。それに向けて2021年はいろいろなことに取り掛かる１年になると思うよ。

漆原　そうすると、僕はお客さんが県内外から来てくれた時にいろいろ紹介できるよう、コンテンツを集めないと。そのコンテンツの１つとして観光農業を取り入れられれば、参加する人にお金を払ってもらって、仕事も手伝ってもらえる。そうすれば農業も伸びてきそうだね。

だいじ　人が来ることで神経を使うから大変かもしれないけど、都会の人たちはそういった体験を求めているからね。日光や那須の観光スポットと一緒に紹介されるような魅力的なまちになるのを期待しています。

漆原　今日はありがとうございました。僕もいろいろ参考になりました。

だいじ　こちらこそありがとうございました。僕もやいた応援大使としてこれからもエールを送り続けますね。

「ガンバレー!!」

ともなりくん　えっ、それだけナリか？

だいじ　ともなりくん、やめて。冷たい目で見ないで。